

復興まちづくり事業計画（素案） に関する意見募集の結果及び市の考え方について

総務部 危機管理課  
平成 30 年 3 月 28 日

復興まちづくり事業計画（素案）について、市民の皆様からいただきましたご意見の概要とこれらに対する市の考え方を下記のとおりお知らせいたします。  
ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

- 1 意見募集期間 平成 30 年 2 月 1 日（木）～ 平成 30 年 2 月 15 日（木）
- 2 意見件数（提出者数） 4 件（1 名）
- 3 意見の取り扱い

内 訳	内 容	件 数
修正	案を修正するもの	0 件
既記載	既に案に盛り込んでいるもの	0 件
参考	今後の参考とするもの	4 件

4 意見の概要と市の考え方

ご意見・提案の概要	市の考え方
①荒れた畑が目立つ丘陵地を整備し、家庭菜園や学校給食用食材の供給地づくりを進める。	<p>荒れた畑につきましては、耕作者への改善指導を継続して実施してまいります。家庭菜園や学校給食用食材の供給地づくりにつきましては、生産者、売買価格、栽培管理等について検討してまいります。</p> <p>【参考】</p> <p style="text-align: center;">（裏面に続く）</p>

<p>②コンクリート三面張りの水路になった、かつての小川を改修する際は、さまざまな生き物がすめるように間伐材を活用する工法を採用する。そのことで有用な生物資源が増えるはずです。</p>	<p>現在、河川や水路の改修では、可能な範囲で環境に配慮したコンクリート製品（かごボックス、ポーラス製品等）を使用しています。</p> <p>今後も御意見にありますよう自然にやさしい河川水路の整備を進めて行きたいと考えています。</p> <p>なお、間伐材の活用については、耐久性の問題もあり、今のところ使用する予定はありません。</p> <p>【参考】</p>
<p>③竹林の再生を目指す。竹炭づくり用の炭窯を整備し、土壌改良材にする。タケノコの消費拡大や販路拡大を目指す。</p>	<p>集落周辺の里山林の整備や、資源を炭焼き、木質バイオマス等へ利用する取組を行う地域住民に対して支援する、森林・山村多面的機能発揮対策事業がございますので、ホームページ等での周知を行っていきます。</p> <p>【参考】</p>
<p>④天然ハマグリが採れ、ノリ養殖の記念碑がある宇土の干潟の魅力をPR。世界的に珍しい水鳥のクロツラヘラサギなどの観察イベントなどを通して干潟のまちのファンを増やす努力をする。これらのことで、ふだんから支援の輪を広げておく。</p>	<p>干潟がある西部地域は、昨今多くの観光客が訪れられております。干潟と併せた地域の魅力の発信について、いただいたご意見を参考に今後検討してまいります。</p> <p>【参考】</p>

※なお、上記4件の意見がありましたので、第I章 復興まちづくり事業計画の概要「1. 事業計画策定の趣旨」において、「自然や環境と調和した」の文言を下記のとおり追加しています。

新	旧
<p>「事業計画」に基づき、災害に強いまちへの再生を図り、<u>自然や環境と調和した</u>より住み良いまち、より活力あるまちの実現を目指します。</p>	<p>「事業計画」に基づき、災害に強いまちへの再生を図り、より住み良いまち、より活力あるまちの実現を目指します。</p>